

2022年(令和4年)度事業の基本方針

新型コロナウイルス感染症も3年目となり、以前の日常生活が取り戻せない状況は続いているが、そのような状況でも、財団の使命である教育文化活動による地域振興を着実に推進できるよう様々な取り組みを引き続き行う。

基本的には、2019年度に再編した事業分野を継続し、粛々と事業を推進し、従来より取り組んできた、オンライン等の活用による基盤整備をより一層進め、助成団体・個人の活動が相互に連携、啓発し合い、地域の活力が継続する支援を行う。

(1) 基本の方針

- ・ 「助成事業の電子申請等を運用する助成業務支援システム」を昨年度導入したが、本格的に運用を行い、さらに地域への波及効果をすすめる。
- ・ 財団からのサポート機能を進化させ、助成団体が相互に啓発、連携等され、活動がより一層充実されるよう具体的な取り組みを行う。
- ・ コロナ禍で状況が不透明だが、常に代替案を持ちながら事業を継続していく。

(2) 表彰事業

- ・ 賞の周知を更に高めるよう広報に努め、推薦数増、新たな候補者発掘につなげる。
- ・ 受賞者のフォローアップとして「受賞後3か年の継続助成」を活用し、更に地域への発信力、影響力を高めていただく。

(3) 助成事業

- ・ 「助成業務支援システム」の運用と改善。
実際に運用に係るすべての人（助成申請者、審査委員、事務局）の意見を尊重しながら、使えるツールになるよう、不具合の修正等の改善を適宜行う。
- ・ 事務作業の大幅な簡素化を図る一方、より効果的な助成先との連携を深める。
- ・ 事業終了時にアンケートを実施し、助成前後の意識や状況の変化等を把握できるようにする。

(4) その他

- ・ 財団設立35周年記念誌を発刊する。
上期前半に発刊し、地域の関係先へ配布し有効活用を図る。
- ・ 財団公式Webサイトの大幅な改定を実施し、より一層の活用を図る。

2022年(令和4年)度の事業計画

(単位：千円)

公益目的事業Ⅰ 教育文化活動支援事業 (定款第4条1項第1号)

予算総額 130,930 (前年度当初 130,840 今回補正後 131,370 ※共通経費を含む)

1 表彰事業 予算総額 3,600 (前年度当初 2,800 今回補正後 3,520)

… 「福武教育文化賞」の第4回目の実施となる。将来、地域振興の担い手となることが期待される個人・団体を表彰できるよう、更に周知に努め、推薦数の増加を図るとともに、福武らしい受賞者を顕彰する。贈賞式は、単独開催とする。

福武教育文化賞

- 《目的》 岡山県の教育文化の振興に顕著な業績をあげ、今後の更なる貢献が期待される個人・団体を表彰し、功績を称えるとともに後進の目標とする。
- 《対象》 岡山県内に在住又は岡山県に関わりのある者に贈るものとし、岡山県の教育文化の向上に著しい貢献が期待される個人又は団体を対象とする。教育、文化の両面から地域課題に取り組み、地域振興への貢献ができていることを重視する。
- 《推薦》 岡山県教育委員会、市町村教育委員会等教育関係団体、報道機関等からの推薦
- 《賞》 表彰状、賞牌及び副賞(30万円) 賞は3~5件程度
- 《選考》 選考委員会で選考し、理事現在数の2分の1以上の同意を得て理事長が決定
- 《予定》 5月告知、6~7月推薦受付、8月選考委員会、11月贈賞式

2 助成事業 予算総額 55,870 (前年度当初 54,570 今回補正後 51,070)

… 「教育文化活動助成」として、教育及び文化の視点から地域振興を図る活動全般に助成する。昨年度より導入した「電子申請システム」を本格的に運用し、事務手続き等を簡素化しつつ、助成団体へのきめ細かな支援を行う。

新型コロナウイルス感染状況により、成果報告会については、昨年度に引き続きオンラインで開催する。

また、特定助成は ①先進的事業助成、②グローバル化事業助成、③瀬戸内文化育成助成の3分類とする。

(1) 教育文化活動助成(公募助成) 予算額 31,530 (前年度当初 33,530 今回補正後 31,320)

《目的》

教育及び文化の視点から地域振興を図る活動による人づくり・地域づくりを応援し、地域が活性化することを期待し、教育文化に関する有意義な実践活動等を助成し、地域の教育文化振興に貢献する。

《助成対象となる活動》

教育又は文化を手段に用いて、岡山県内で実施される地域社会の課題解決と社会的価値の創造を図る活動(教育文化の質の向上も含む。)申請区分は、以下の4類型

1. 地域社会(コミュニティ)の活性化のために教育や文化芸術を活用する活動
2. 次世代育成のために教育や文化芸術を活用する活動
3. 教育の質の向上や普及に取り組む活動
4. 文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

《助成額》 原則1件当たりの上限は30万円

《期間》 2022年(令和4年)度中に実施する事業

《審査》 審査委員会（4部会16名）で審査し、理事現在数の2分の1以上の同意を得て決定

《予定》 12～1月申請受付、3月審査委員会、4月事業開始、9月成果報告会

(2) **福武教育文化賞受賞者フォロー助成** 予算額 3,000（前年度当初 1,800 今回補正後 1,200）

《目的》

福武教育文化賞の受賞者に対して、受賞後も継続して質の向上と人づくり・地域づくりの活動を行うことを促すため、受賞後3ヵ年30万円を限度として申請に基づき助成する。10件相当。

(3) **特定の特色ある活動に対する助成（特定助成）**

予算額 20,540（前年度当初 18,740 今回補正後 18,250）

教育文化活動支援のうちで、公益性が明確で、継続的に支援しなければ効果的でないものに以下の3分類に分けて、助成する。

① **先進的事業助成** 予算額 16,700（前年度当初 16,300 今回補正後 16,128）

新たな教育文化的価値の創造に寄与する先進的かつ実践的な活動を行う団体等に対して助成する。

- ・ 岡山大学国吉康雄寄付講座（10,500）
- ・ 高校と地域の連携・協働を推進する活動（井原市ひとづくり実行委員会等へ計1,800）
- ・ 学校出前講座事業（公益社団法人岡山県文化連盟1,000）
- ・ 多様な芸術文化鑑賞支援
（「岡山の美術」活性化事業実行委員会2,000、一般社団法人クニヨシパートナーズ500、みるを楽しむ！アートナビ岡山300、岡山大学医学部（アート教育普及）300、特定非営利活動法人アートファーム300）

② **グローバル化事業助成** 予算額 1,500（前年度当初 1,500 今回補正後 1,500）

ア) **英語力向上につながる研修事業への助成**（1,200）

小中高校生に対して、各地域で行われる実践的な英語力向上事業に対して助成する。

（備前まなび塾+英語体験教室、矢掛町外国語教育推進研究会、特定非営利活動法人こくさいこどもフォーラム岡山、岡山県立大学）

イ) **日中青年交流事業**（岡山県日中教育交流協議会300）

コロナ禍により昨年に引き続き、今年度はリモートでの交流に対して助成する。岡山県と中国の高校生が相互に交流し、互いの学校紹介や意見交換を行う。

③ **瀬戸内文化育成助成** 予算額 2,300（前年度当初 900 今回補正後 600）

瀬戸内文化の育成、創出のために必要なプロジェクトに対して助成する。

（たまの☆おもてなし推進委員会、こども芸術アプローチ実行委員会、玉野みなと芸術フェスタ実行委員会、特定非営利活動法人公共の交通ラクダ、日本美術教育学会岡山支部、特定非営利活動法人アートファーム）

(4) **公募助成に準じる緊急を要する等の助成** 予算額 800（前年度当初 500 今回補正後 300）

年度途中で申し出のある緊急を要する教育文化活動に対して助成する。

3 研修会等開催事業 予算総額 1,300（前年度当初 1,600 今回補正後 160）

昨年度より順延となった第10回記念フォーラムを実施する。実施形式（集合、オンライン配信、併用）等については、流動的に対応する。

また、助成団体を主な対象として少人数の勉強会方式で実施している「andF 教室」は、年間3～5回程度、原則オンライン形式での開催とする。

4 調査研究事業 予算総額 1,000 (前年度当初 1,570 今回補正後 1,300)

- 小学生の美術館体験事業
コロナ禍で2年に渡って順延となったが、改めて今年度を実施する。
実験的な取り組みとして、美術館や小学校、文化団体等と連携し、小学生の美術館体験が持続可能となる仕組み作りに取り組む。
- 教育文化活動助成対象者へのアンケート調査
中長期の観点から、体系的、継続的なアンケートの実施を行う。
過去13年間(2008-2020)に助成した団体への大規模な追跡調査アンケートを昨年度実施した経験値を生かし、ご指導いただいた岡山大学青尾准教授からのご助言のもとに実施する。

5 主催公演事業 予算総額 0 (前年度 0)

今年度は実施しない。事業収入(ベネッセホールディングスの配当金)が以前の水準に戻るまで休止する。

[参考]

この事業は、2018年度に「新岡山のいろ・かたち」事業(岡山から全国、世界に発信できる芸術文化の公演を行う。岡山の誇れる文化や芸術、またそれらが交流連携した新たな魅力が発信される公演機会を年に一度、Jホールで提供する)として新設したが、その直後、ベネッセホールディングスの配当金が半減したため、財源不足となり、現在にいたるまで休止している。

6 広報事業 予算総額 8,300 (前年度当初 6,200 今回補正後 9,670)

財団の事業が積み重なっていく継続的な広報を通じて、効果的な事業を行う。同時に、助成団体・個人の活動が継続、波及するための取り組みをより一層行う。

- 財団公式 Web サイトの大規模な改訂を実施する。昨年度からの準備期間を経て、必要とする情報が分かりやすい環境を提供するとともに、アーカイブとしての機能の充実を目指す。
- Zoom、FaceBook、YouTube等様々なツールを活用し、更なる財団活動の発信を行い、助成団体の相互連携、啓発を図る。
- 35周年記念誌を様々な活用し広報する。
- 財団機関誌「FUEKI」を年間3回発刊する。
- 瀬戸内国際芸術祭2022のスタディーツアーを対象別に複数回実施する。単なる視察見学に終わらせず、事前学習、事後成果報告会の実施等で、地域の再発見・掘り起こし・新発見につなげると共に、今後の人材育成につなげる。

7 周年記念事業 予算総額 5,000 (前年度 5,000 今回補正後 5,000)

財団設立35周年として、昨年度積み立てた特定資産5百万円で下記の事業を実施する。

内 容	金額 (万円)	
公募助成金の増額	200	コロナ禍での申請数増に対応
記念誌発刊と Web 改定	150	設立 35 年周年記念誌を発刊し関係先へ配布する
記念広報	150	財団事業に係る広報で発信力を高める
合計	500	